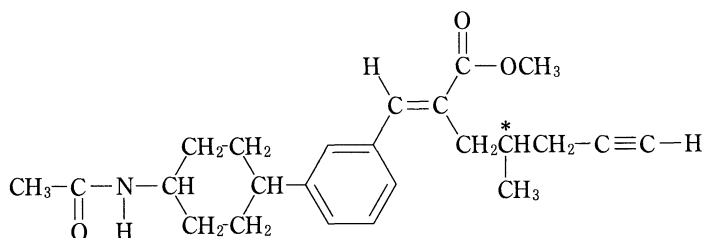


### 第3問

次の I, II の各問に答えよ。ただし、原子量は次の値を用い、構造式は下記の例のように示せ。

元素	H	C	O	I
原子量	1.0	12.0	16.0	127.0

構造式の描き方例。\*印をつけた炭素原子は不斉炭素原子を表す。



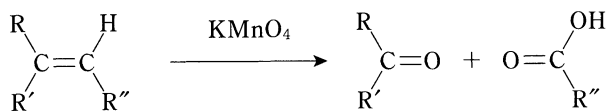
I 次の文章を読み、問ア～オに答えよ。

みかんの皮は、昔から漢方薬や入浴剤として使われている。この果皮の成分として、炭素原子と水素原子だけからなる化合物 A が得られた。化合物 A は不斉炭素原子を有し、常温・常圧で無色透明の液体である。化合物 A の構造を決定するために以下のような実験を行った。

実験 1 ある一定量の化合物 A を完全燃焼させたところ、二酸化炭素 11.0 mg、水 3.6 mg が得られた。また、分子量の測定値は  $138 \pm 3$  であった。

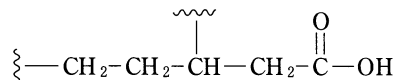
実験 2 化合物 A 50.0 mg に水素を付加させたところ、標準状態に換算して 16.5 mL の  $H_2$  を吸収し、飽和化合物 B を生じた(ただし、標準状態の  $H_2$  1.00 mol の体積は 22.4 L とする)。

実験 3 下記のアルケンを酸性の過マンガン酸カリウム溶液中で熱すると、ケトンとカルボン酸を生じる。

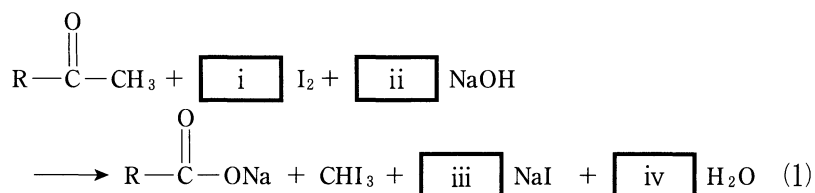


(R, R', R'' : 炭化水素基)

化合物 A を酸性の過マンガン酸カリウム溶液中で熱すると、生成物の 1 つとして以下の部分構造式をもつモノカルボン酸(一価カルボン酸) C が得られた。



実験 4 ヨードホルム反応は以下の式(1)にしたがって進行するという。



モノカルボン酸 C はヨードホルム反応を示し、モノカルボン酸 C 0.100 mol に対して、消費されたヨウ素 I<sub>2</sub> の重量は 152.4 g であった。この実験と実験 3 の結果から、モノカルボン酸 C の構造が決定できた。

[問]

- ア 化合物 A の分子式を求めよ。
- イ 実験 2 から、化合物 A に含まれる不飽和結合の種類と数について 2通りの組み合わせが考えられる。それぞれを記せ。
- ウ 式(1)の係数  $\boxed{\text{i}}$  ~  $\boxed{\text{iv}}$  を記せ。
- エ 上記実験 1 ~ 4 で得られた情報から、化合物 A として考えられる構造式は 3 種類にしばられる。これらの構造式を示せ。ただし光学異性体は同一の化合物とみなす。
- オ 実験 2 で得られた飽和化合物 B は不斉炭素原子をもたないことがわかった。この情報により、問エで推定された候補の中から化合物 A を特定することができた。その構造式を示せ。また、化合物 A の不斉炭素原子を \* でしるせ。